

都道府県別賞一等

私達を見守る生命保険のあたたかさ

神奈川県 川崎市立宮崎中学校 二学年

一條 友織

生命保険と聞くと、遠い未来のことのように思えて、まだ自分には関係なさそうだと感じていた。だが、最近成人年齢が二十歳から十八歳に引き下げられ、私もあと四年で成人することになる。そして、十八歳から親権者の同意を得ずに生命保険に加入することができるようになる。つまり、私はあと四年後には自分のことは自分で決め、自分に合った生命保険を選ばなくてはいけなくなるのだ。そう思うと、今のうちから生命保険について知っておくべきだと改めて感じた。

早速インターネットで調べてみると、まず一番初めに目に飛び込んできたのは、「相互扶助」という言葉だ。生命保険は助け合いの仕組みで成り立っていて、一人でいくらかお金を貯めて備えても限界があり、カバーできない部分が出てきた時に、大勢の人がお金を出し合っているからこそ、必要な時に保障できるのだと思った。自分自身の病気、ケガ、介護の備えになる生命保険に対しての、やもやが解消された。誰だって年を取り高齢者になって助けが必要になる。誰にだってリスクはある。生命保険は、そのようなものに備え、私たちが安心して生きていけるようにするためにみんなが助け合う「あたたかいもの」であるのだと、私の中でイメージが変わった。

さらに調べていくと、生命保険には数多くの種類があり、自分に合ったものを自分で選んでいかなければならないのだと気付いた。将来の私には、そのような数多くの種類の中から自分に合ったものをきちんと選んでいるのだろうかかと心配になった。生命保険は自分のためだけにあるものではないので、なおさら生命保険の選択は大切になる。人生の中で、私達は進学、就職などにおいて多くの道の分かれ道に立ち、選択していく。生きるには、選択の連続だと言っていると思う。そして生命保険についての選択も、そのうちの大きな選択に入っているのだと感じ、その重要性を実感した。

私には今、将来は教師になりたいという夢がある。教師への道を目指している間も、教師になれた後も、リスクは充分にあるし、そのために備えておかなければ安心して生きていけない。私は今学校に通っている中学生の立場として、もしも担任の先生や担当教科の先生、顧問の先生などいつもお世話になっている人に急に何かあって入院したりしてしまったら、とても困る。そしてとても悲しくなる。極端な話、勉強に身が入らなくなってしまうかもしれない。その

第61回中学生作文コンクール

くらい、教師は生徒にとって大切な存在だ。今生徒である私の立場から言えることだから間違いない。私がいつか夢を叶えて教師になった時も、生徒にとって教師は大切な存在であってほしい。家族なども含め、誰もが、大切にしている人がいて、自分を大切にしてくれる人がいる。このようなことも考えると、生命保険は周りの大切な人たちのためにも重要な役割を果たしている。

生命保険は一見、普段は話題に出て来ない遠い存在であるかもしれないが、最終的には私達が生きるための「源」なのだ。命なしでは何事もできない。そう考えると、生命保険が身近に感じられてくる。私が安心して夢を追いかけるのも生命保険のおかげ。生命保険が、いつも私達のそばにいて、近くで見守ってくれる存在であってほしい。